

チャノキイロアザミウマ

学名：
Scirtothrips dorsalis



発生作物：ピーマン・シシトウ

発生経過

平成20年1月に南国市の施設シシトウで、新葉が湾曲、変形するとともに、果実や果梗部が細かくひび割れる被害が発生しました。その被害部分に黄色の小さなアザミウマが確認されたことから、高知県農業技術センターで同定したところ、チャノキイロアザミウマであることが確認されました。

その後、同市の施設ピーマン1ほ場及びシシトウ3ほ場でも発生が認められましたが、それ以外の地域でのピーマン、シシトウでは今のところ発生は確認されていません。

本種は茶や果樹の害虫として知られており、本県でもこれらの作物では被害が発生していますが、ピーマンやシシトウでの被害は本県で初めてであり、全国的にも沖縄県以外では被害の報告はありません。



写真1：成虫

形態、生態等

成虫は雌雄とも体色が黄色で、頭部前縁と中胸背板前縁は灰褐色を帯び、全体に幅広です(写真1)。体長は雌が約0.8～1.0mmで雄は0.7～0.8mmと、ミナミキイロアザミウマなどと比べると小型で、前翅を閉じると中心部が縦に黒く筋状に見えます。幼虫は孵化直後は黄白色でその後黄色味が強くなり、蛹も黄色で、胸部から腹部にかけてやや膨らみます。成虫、幼虫ともミナミキイロアザミウマなどに比べて、作物上で素早く動きます。

被害状況

生息部位は生長点や葉、果実、果梗部で、花にはほとんど寄生しません。寄生を受けた葉は波打ち、ひどい場合は葉縁部が上側に巻き込みながら萎縮し、食害部はかすり状となります。また、その周辺部分が暗紫色に変色する場合も見られます(写真2)。生長点部分が食害されると芯止まり状態になり、その症状はチャノホコリダニの被害にも似ています(写真3)。果実が食害されるとミナミキイロアザミウマの食害と同様の灰白色のコルク化した傷が生じ、商品価値が著しく損なわれます(写真4、5)。



写真2：葉の被害



写真3：生長点部分の被害



写真4：ピーマン果実の被害



写真5：シシトウ果実の被害

防除対策



- 1 ピーマン、シシトウの本種に登録された農薬はありませんが、それら作物に登録があるスピノエース顆粒水和剤やコテツフロアブル、アフーム乳剤などで同時防除が可能と考えられます。
- 2 ハウス開口部へのネット被覆など耕種的防除もあわせて行います。